

天童・中1女子自殺3カ月

第三者委設置遅れる

天童一中1年の女子生徒(当時12)がいじめを受けていたとのノートを残して自殺した問題は、学校がいじめがあったとの認識は示したものの、実態と自殺との関連を調査する第三者委員会は設置されないままの状況が続いている。7日で生徒が亡くなって3カ月。遺族と学校、市教委との間には、いじめに関して明確に相談し、回答したかどうかで食い違いも浮上した。遺族は学校側の対応に不信感を募らせている。

事実認定委ねる

天童一中は4日、これまでのアンケートと聞き取り調査の結果から「女子生徒へのいじめがあったとみられる」との認識を示した。いじめ行為をした複数の生徒と保護者に対しては既に指導し、今後継続して指導することを明らかにした。

一方で学校は、事実関係などについては「今後設置される第三者委員会に初期の認定を委ねる」と説明する。

学校と市教委は3月28日、遺族と代理人に対し、1月中旬にも第三者委員会を設置する方針を示した。市教委は遺族の要望を受けて教育関係の専門家、弁護士、医師、心理士、PTA連合会、人権擁護団体から推薦を受け、委員候補を提示した。代理人によると、遺族は市教委が第三者委員会に閣与しないよう要求。委員の増員や事務局を市教委に置かないことなど、設置要綱の全面的な見直しを求めている。

いじめ相談で食い違い 遺族、不信感募らす

「全く誠意ない」 幅広く人選を
女子生徒をめぐっては、母親が昨年6月と7月に担任に学校生活に関して相談し、本人も9月、学校が月1回実施する調査に対し、友達関係で不安を示していたことが分かっていく。

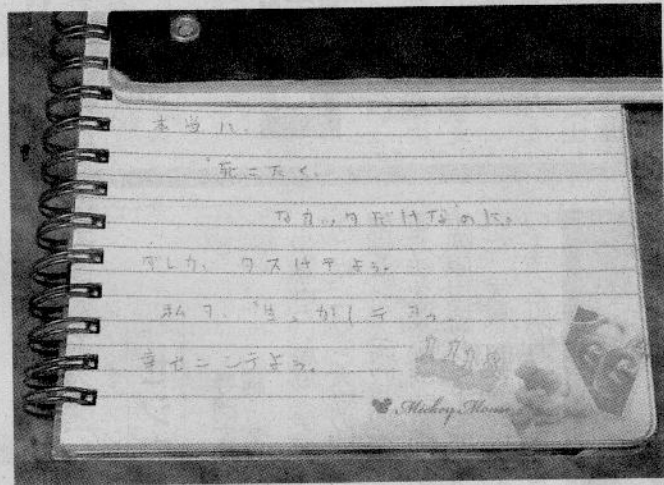
遺族はこれまでの取材に対し、6月6日に相談したきっかけが、この日「いじめ」を明確に伝えたとを明らかにした。担任には「娘がいじめを受け

いじめ問題に詳しい山形大基盤教育院の加納寛明は難しくなる。委員は県内に限定して人選するのはなく、広くいじめに関して詳しい弁護士や精神科医などの専門家を選任すべきだ。

市教委は「委員会設置を優先して進めてしま

遺族はこれまでに取材に対し、6月6日に相談したきっかけが、この日「いじめ」を明確に伝えたとを明らかにした。担任には「娘がいじめを受け

遺族はこれまでに取材に対し、6月6日に相談したきっかけが、この日「いじめ」を明確に伝えたとを明らかにした。担任には「娘がいじめを受け



女子生徒がいじめを受けていたと記したノート

これに「いじめ」を明確に伝えたとを明らかにした。担任には「娘がいじめを受け

遺族はこれまでに取材に対し、6月6日に相談したきっかけが、この日「いじめ」を明確に伝えたとを明らかにした。担任には「娘がいじめを受け

メ モ 女子生徒は3学期始業日の1月7日朝、登校途中で山形新幹線にはねられ死亡した。自宅から「陰湿ないじめにあっていた」「誰かたすけて」などと書かれたノートが見つかった。学校は1月15日、全校生徒532人を対象にアンケートを実施。13人が女子生徒へのいじめを直接見聞きしたと回答し、100人以上がいじめに関する記述をした。同17日に行った教職員へのアンケートでは、いじめに関する記述はなかったという。